

NPO法人大雪山自然学校 活動予定

(活動場所)

- ・ 旭岳姿見の池園地・旭岳温泉・天人峡温泉

(活動期間)

6月1日～10月31日

(主な活動)

- ・ 登山道や案内看板等施設の維持管理と軽微な補修
- ・ 国立公園の清掃活動
- ・ 利用者への指導、利用マナー普及
- ・ 利用者への情報提供
- ・ 旭岳協力金の呼びかけ、長靴の貸し出し（300円）

(携帯トイレ関係)

- ・ 「山のトイレを考える会」と連携し、レクチャーでの携帯トイレ普及啓発及び掲示物でトイレブース案内や携帯トイレ利用促進を行う

(大雪山グレード関係)

- ・ 大雪山グレードを意識した整備活動
- ・ 利用者に対する大雪山グレードの普及啓発

(外来種関係)

- ・ 姿見園地内の外来植物防除（セイヨウタンポポ・アキタブキなど）
- ・ セイヨウオオマルハナバチ対策連絡会議と連携し姿見園地内での監視活動を行う

(スタッフ)

小沼秀樹、羽馬和美、藤このみ、遠藤将司、高橋可翔、関真宏、廣瀬さつき、三上俊之

大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト

2017ボランティア募集中

活動内容



散策路整備用の石運び



道迷い防止のためのロープの撤収 散策路のごみ拾いやマナー呼びかけ



長靴の管理



散策路の整備

自然保護について呼びかけるレクチャー

※天候や参加日程によって違いがあります。
 ※登山やアウトドア未経験者も多く参加しています。
 ※登山ではなく、ロープウェイで活動場所まであります。貸し出しウェアもあります。

集合・解散

集合

札幌発 札幌駅バスターミナル14番前 7:00集合
 旭川発 旭川駅10番バス停 10:00集合

解散

札幌着 札幌駅バスターミナル 21:30解散
 旭川着 旭川駅 19:30解散

生活

宿泊

NPO法人大雪山自然学校事務所に宿泊します。寝袋で雑魚寝になります。

食事

朝夜については、事務所の台所で調理します。移動中や旭岳など調理できないときは、活動中にお店に寄ることが出来ます。

コアスタッフ・参加者の声

コアスタッフ

旭岳は、四季折々の美しい風景や貴重な動植物を見ることが出来ます。この活動ではこのような素晴らしい自然を残していくために自然保全活動を行います。自然保護、動植物、ボランティア、環境分野に興味がある人、何か新しいことを始めてみたい人にオススメです。みなさんと活動で会えるのを心待ちにしています。(ボランティアリーダーより)

参加者

自然の中で活動したことで「保護する」という意識が高まったので良かった(大学生男性)/百聞は一見に如かず、百見は一泊に如かず、と感じた(大学生男性)/考えていた以上に楽しくて、人として成長できる場であることを実感した(大学生男性)/作業だけでなくスタッフと話が出来たことが嬉しかった。地元に戻っても自然保護活動に参加したいと思った(社会人女性)

受け入れ団体

NPO法人大雪山自然学校

※この活動は、「東川町・大雪山国立公園保護協会」の自然保護対策事業を受託するNPO法人大雪山自然学校と協働で実施しています。

※本事業は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金を活用しています。

日程

第一回	6月17日(土)～18日(日)	1泊2日
第二回	7月1日(土)～2日(日)	1泊2日
第三回	7月15日(土)～17日(日)	2泊3日
第四回	8月5日(土)～7日(月)	2泊3日
第五回	8月26日(土)～28日(月)	2泊3日
第六回	9月16日(土)～18日(月)	2泊3日
第七回	9月23日(土)～25日(月)	2泊3日
第八回	10月7日(土)～8日(日)	1泊2日

場所

大雪山国立公園 旭岳(上川郡東川町)

活動内容

日本最大の国立公園である大雪山国立公園内にある、北海道最高峰の旭岳にて、「旭岳自然保護監視員」の方々と、3～8名のボランティアチームで自然保護活動を行います。登山・観光客に自然保護について呼びかけるレクチャーや、壊れた登山道の整備、高山植物保護のためのロープはり、外来植物除去作業などを行います。ロープウェイで活動場所までまいります。

参加費

NPO法人ezorockの会員費(学生:3000円・一般:5000円)以外に以下の費用がかかります。

(1)期間中の食費(朝夜はみんなで調理します)

(2)交通費 片道分自己負担(片道分補助有※札幌・旭川～)

【札幌出発の場合】片道3,500円程度

【旭川出発の場合】片道1,500円

申し込みはこちら!!

ezorock



検索

NPO法人

ezorock 大雪山国立公園自然保護プロジェクト

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX : 011-562-0081 E-mail : info@ezorock.org WEB : http://www.ezorock.org/

f http://www.facebook.com/ezorock/

http://twitter.com/ezorock/



NPO法人
ezorock

大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト

2017ボランティア募集中



2017年6月～10月8回実施(1回～2泊)
交通費片道補助有(札幌・旭川-旭岳間)
大雪山国立公園旭岳(日本最大・北海道最高峰)

高度1600m`神々の遊ぶ庭と呼ばれた天空の地へ！

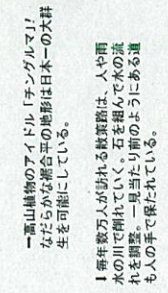
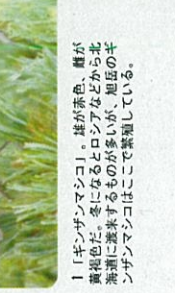
大雪山国立公園 旭岳自然保護プロジェクト



「アフリみたい！」
「ここはもうやばい世界？」
旭岳の顔ももろからロープ
ウチ子に乗って87分して、標高16
00mの「養賢亭」へ到着する。
駅前から眼下に広がる野外に、感
嘆の声が上がる。
「大雪山国立公園旭岳自然保護
プロジェクト」都市部の著名な
が国立公園の自然保護活動に参
加するプロジェクト。活動は、主
に旭岳の「養賢の池」敷設路
開削で風物保護プロジェクトの管理や
散策者へのレクチャーや、山
丸根や旭川から旭岳へ、山
人程のボランティアが来る。
参加者の動機や所属は様々だ。
山が初めてという人も、中を
歩きながら環境保全を学んで
社会人もいる。初めての人
健強会や研修を経て、引リ
テアリーダーにもな

「アフリみたい！」
「ここはもうやばい世界？」
旭岳の顔ももろからロープ
ウチ子に乗って87分して、標高16
00mの「養賢亭」へ到着する。
駅前から眼下に広がる野外に、感
嘆の声が上がる。
「大雪山国立公園旭岳自然保護
プロジェクト」都市部の著名な
が国立公園の自然保護活動に参
加するプロジェクト。活動は、主
に旭岳の「養賢の池」敷設路
開削で風物保護プロジェクトの管理や
散策者へのレクチャーや、山
丸根や旭川から旭岳へ、山
人程のボランティアが来る。
参加者の動機や所属は様々だ。
山が初めてという人も、中を
歩きながら環境保全を学んで
社会人もいる。初めての人
健強会や研修を経て、引リ
テアリーダーにもな

「アフリみたい！」
「ここはもうやばい世界？」
旭岳の顔ももろからロープ
ウチ子に乗って87分して、標高16
00mの「養賢亭」へ到着する。
駅前から眼下に広がる野外に、感
嘆の声が上がる。
「大雪山国立公園旭岳自然保護
プロジェクト」都市部の著名な
が国立公園の自然保護活動に参
加するプロジェクト。活動は、主
に旭岳の「養賢の池」敷設路
開削で風物保護プロジェクトの管理や
散策者へのレクチャーや、山
丸根や旭川から旭岳へ、山
人程のボランティアが来る。
参加者の動機や所属は様々だ。
山が初めてという人も、中を
歩きながら環境保全を学んで
社会人もいる。初めての人
健強会や研修を経て、引リ
テアリーダーにもな



「旭岳自然保護プロジェクト」の活動は、道、県、市、ロープウェイ会社による協業から自然守隊への委託で行われている。

「禁止行為を掲示し付けるのびなく、後花やおすずりか、ルートへの被害が少なく、」

「高山植物のアイドル「チングルマ」！」
なだらかな深谷の地形は日本一の大群生を可能にしている。

「毎年数万人が訪れる観光地は、人や雨水の川で削れていく。石を組んで水の流れを調整。一見当たり前のようになっている。でも人の手で保たれている。」

「雨時は川のようになることもある登山道。水を避けて、植物を踏むことのないよう、簡易木道を置く。」

活動時期は6月～10月。年間8回、主に土日祝を活用して2～4日の日程。レイアウト買出しOK。運動靴と運動できる長袖長ズボンが必要。参加費は5000円です。申込:zenorockまで。



「日本最大の大雪山国立公園。神楽川川を同じく大きく、10市町村をまたいで、北海道道庁管轄の旭岳は、東川町に位置する。」

「この活動は、「東川町・大雪山国立公園保護協会」の自然保護対策委員会と協働で実施しています。※この活動は、平成28年度旭岳自然保護基金の助成を受けて実施しています。」

「利用」について、度々説明がある。「一言でいうとこの自然をいままも楽しめるように残す」と、そのために「利用者による管理」を指すということだ。

「利用者による管理」については、わかりやすい活動がひとつある。散策者へのレクチャーだ。年間約数万人訪れる散策者自身がお金を払うなどのマナーを守れば、自然も残りやすくなる。立ち入り禁止になつて来しめなくなることもない。

そのために最初に散策者を集めてお花などの見どころ情報を伝え、最後はさりげなくマナーを付け足す。すると昔、耳を貸さず、聞かぬ人同士でもお互い声をかけ合える。導人後、マナーが向上し、以前は5人必要だった巡回スタッフを1名まで減らすことができたそうだ。

こういった「利用者」とは散策者だけでなく、石狩川流域に住むわたしたちや、事業者なども含まれるのかもしれない。「実は恩恵を受けている人はたくさんいて、その人たちもそれぞれの形で管理に関わることができるといい」と、大雪山自然学校の荒井さんは言う。

こうした数日間を終えた参加者からは「NPOってこんなこととしてるんだ」「ただ山に行くだけでは得られないやりがいがある」「何回も行って、小さい花のきれいなさを知った」との声を一度行くと、どうして列をなげられないのか、頭で体で感じることもできるはず。北海道最高峰へ行ってみませんか。